

■**巖本善治** 近代的婦人観で{女学雑誌}{明治女学校}を主宰、多くの進歩的女性を育てたが挫折、支離滅裂な後半生になった。

いわもとよしはる

8月18日政変 1863= 但馬国出石で、藩儒井上長忠の次男に生まれる。

**明治維新**・1868= 5歳：母方の叔父で福本藩の家老格巖本範治の養子になる。

学問のすすめ1872= 9歳：

**明治6年政変** 1873=10歳：

三つの反乱・1876=13歳：上京し、

中村正直の{同人社}で英語・漢文・自由主義などを学び、ミル、スペンサーなどの影響を受ける。

・・・1880=17歳：\_津田仙の{学農社}農学校へ進み、

**明治14年政変**1881=18歳：\_{学農社}の{農業雑誌}に小論文を書き始め、

秩父事件・1884=21歳：\_津田仙の影響でキリスト教を信仰するに至り、  
下谷教会で同郷の牧師木村熊二より\_受洗。卒業して{農業雑誌}の編集に携わり、{基督教新聞}に寄稿。さらに、{修正社}から近藤賢三と{女学新誌}を発行するが、やがて社と対立して離脱し、

内閣発足・1885=22歳：\*近藤を編集人に{女学雑誌}を創刊し、次々寄稿。{基督教新聞}の主筆としても活躍。木村熊二が九段に開いた明治女学校の発起人となり、

帝国大学始・1886=23歳：この年\_結成された東京婦人矯風会を積極的に支援。近藤が急逝したため、{女学雑誌}の編集人になり、さらに、木村の妻で明治女学校取締役だった鑑子が急逝した後を受けて、

国民之友始・1887=24歳：\*明治女学校教頭となって経営に乗り出し、東京婦人矯風会の機関誌の編集名義人にもなる。「木村鑑子小伝」を故人の旧知で40歳年長の勝海舟に依頼しに行ったのを縁に、勝邸に頻繁に出入りするようになった。

**帝国憲法発布**1889=26歳：\_フェリス女学院に講演に行つて助教若松賤子を知り、結婚。

帝国議会始・1890=27歳：妻賤子が「女学雑誌」誌上に「忘れ形見」を発表。\_発足した東京娯楽会の委員となり、各地に遊説。女学雑誌社から、星野天知とキリスト教系の女学校の生徒に投稿させる雑誌{女学生}を創刊。

大本教・・・1892=29歳：妻賤子が「小公子」の翻訳を発表、清新な口語体の名訳として知られる。\*明治女学校の校長になるが、

郡司千島探検1893=30歳：明治女学校で教えたり{女学雑誌}に寄稿してきた北村透谷、島崎藤村らが足元離れて{文学界}創刊。

**日清戦争始**・1894=31歳：

\_教会や宣教師の経済的援助を受けなかったのが、学校の経営は苦しかった上、

白馬会・・・1896=33歳：\_失火で校舎・寄宿舎・教員住宅の大半を失い、直後に妻賤子が結核で死去。

Bushidou・・・1899=36歳：勝海舟の死去直後、かねて{女学雑誌}誌に連載した座談を「海舟余話」に纏めて刊行。

\_学校再建の傍ら、宗教・政治の活動を続けたが、

警世家・女性啓蒙家とは言いながら、女癖が悪く、詐欺的行為もあるなど、\_不名誉な噂も付いてまわり、

日比谷公園・1903=40歳：\_{女学雑誌}の編集人を辞め、

**日露戦争始**・1904=41歳：\_明治女学校の校主に退き、

**日露戦争終**・1905=42歳：\*半ば逃げるように、押川方義と朝鮮に渡り、以後、やや支離滅裂な人生となって行く。

**韓国反日暴動**1907=44歳：ブラジル移民を扱う(明治殖民会社)を興し、

アラブ創刊・1908=45歳：ペルーに渡る。

**明治天皇没**・1912=49歳：コーヒーの直輸入会社{カフェ・パウリスタ}を興し、

民本主義・・・1916=53歳：明治女学校の跡地に信託合資会社を設立、

**ロシア革命**・1917=54歳：

**原敬首相暗殺**1921=58歳：

護憲三派圧勝1924=61歳：日活の取締役になった。

円本時代始・1926=63歳：

海軍軍縮条約1930=67歳：「海舟座談」を編集出版。

**満州事変**・・・1931=68歳：

芥川直木賞始1935=72歳：

**日中戦争始**・1937=74歳：「海舟座談」を増補。\_林銑十郎の組閣に口を出し、自宅を{神政書院}と名付け、国家神道を説き、「大日本は神国なり」という本に序文を書くまでになって、

**日米開戦**・・・1941=78歳：

・・・1942=79歳：\_没した。